

試験室をリニューアル

壁面に「COZY PACK Air」採用 東和酵素

東和酵素（神奈川県平塚市）は試験室をリニューアルし11月より本格稼働している。

同社が製造する「塗装ブース用微生物製剤ミタゲンクリアー」は微生物の生態を利用しており、その微生物には枯草菌（通称ミタゲン菌）を使用している。

「ミタゲンクリアー」を製造するにあたり重要なのが菌の培養。高品質を維持するためにはコンタミネーション（雑菌混入）を防ぐ必要がある。社内設備の老朽化もあり、コンタミネーションのリスク低減を目的に培養設備と試験室の改修を実施した。

リニューアルでは古くなった壁や床を補修し試験室や菌株保管室を新しくした。菌の植え継作業でのコンタミネーションを防ぐためにクリーンベン



菌株保管室

チを使用し、室内にはUV 空気除菌装置を設置した。

壁面には大日本塗料の「COZY PACK Air」を採用。この塗料は蛍光灯やLED 照明などの室内灯に光触媒が反応し壁面に付着したウィルスを99.9%抑制する。これにより菌株保管室を雑菌混入のないクリーンな状態に保つことが可能となった。

主に菌数測定などの菌に関わる分析を行っている第一試験室では壁や床



第一試験室

の補修を行った。更に試験室内のオートクレーブ（高圧蒸気滅菌器）を最新式に更新し、実験器具や菌の培養に使用する培地の滅菌の効率化を図っている。

試験室内で滅菌から植菌まですべて同室内で完結することができるため、作業効率向上、時間短縮とコンタミネーション防止が可能となった。

第二試験室では主に排水、塗装ブース循環水の分析業務を行っている。顕微鏡、インキュベーターの設備を一新



第二試験室

することで試験室のコンパクト化を実施。その結果、クリーンルームも導入することができ、コンタミリスクの低い環境で培地を作ることができるようになった。

試験室の改修を実施したことで、「よりクリーンな状態での菌の培養が可能となり、今までよりもクオリティの高い製品の提供ができるようになる」との見方を示し、より精密な研究も行うことができるため、新たな製品の開発や品質向上に期待する。